

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300089		
法人名	株式会社 リブレ		
事業所名	グループホーム なつぎ埜	ユニット名	いぶき
所在地	〒984-0835 宮城県仙台市若林区今泉字小在家東97-2		
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な畑を利用してキュウリやトマトなど様々な野菜を栽培しており、利用者様と一緒に水やりや草取りといった管理も行っている。調理で野菜が必要な時は一緒に収穫へ行き食べ頃の野菜を選んで頂き、そのまま一緒にご飯の準備をしている。天気の良い日は両ユニットが中庭に出てラジオ体操を行い身体を動かしている。ラジオ体操後は中庭にて両ユニットのお茶飲みがあり交流を図っている。趣味支援として生け花や、工作、ガーデニングなど、様々な趣味活動を継続していけるようにしている。若い職員が多くとても明るい雰囲気の良いユニットであり、利用者様も自然と笑顔が多くなっている。資格取得に向けての意欲があり、介護福祉士の勉強会、外部研修などにも積極的に参加する姿が見受けられる。掲示板による啓発活動を行っている。オレンジカフェの実施も計画している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR長町駅から車で15分ほどの豊かな自然環境に恵まれた事業所は、あすと長町の仮設での生活を経て3月16日に引越し5カ月が経過した。町内会に入会し地域の行事に参加したり、オレンジカフェを企画する等、「なつぎ埜」が短期間のうちに地域の一員になりつつある。3月末には被災以前から交流があった「六郷すずめ踊り」の皆さんが、花のプレゼントを持参して駆け付け歓迎の踊り披露があり、子どもたちと握手をする入居者に笑顔がみられ職員も共に感動を分かち合った。センター方式のシート・家族面談簿等にも仔細な記録と工夫が見られ、ケアプランに活かされている。落ち着いて暮らせるよう寄り添うケアを実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年8月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム なつぎ塾)「ユニット名 いぶき」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の理念の振り返りを行い、達成状況の確認をし、本年度の理念作成をしている。毎年BS法を用いて皆で意見を出し合い作成している。朝の申し送りの中で理念の唱和を行っている	年度末になつぎ塾理念と各ユニットの理念を、見直した。職員から出された意見を集約して、各ユニットの理念を作成し共有している。地域に馴染みながら四季を感じ、一人ひとりの生き甲斐を大切に生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩での挨拶や町内会へ入り、地域の行事の情報ももらっている。近くの老人保健福祉施設の夏祭りに参加したり、六郷すずめ踊りを駐車場で披露したりしている。講演会を開催し参加して頂けるようにしている。地域の方から米や野菜を購入し地産地消をしている	事業所が地域の社会資源でもあり、独居の方への配慮、認知症の理解等、日常の交流に留まらない地域とのつながりを意識している。掲示板の活用やオレンジカフェを企画し、新しい地域との交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を設け、介護相談や耳より情報等を掲示し認知症の情報を発信している。月1回、手作りのなつぎ塾便りを作成して地域や家族に配っている。講演会を開いて認知症の情報発信をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なつぎ塾が今泉地域に戻って来たことを地域の人は分からないという意見があり、広告を作成し回覧板や掲示板を使用して情報を発信した	包括職員(毎回)・本人・家族・区長・民生委員で構成し、年6回開催している。要望から仮設の方々を対象に、認知症サポーター養成講座を開催した。移転後も定期的に開催され、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中国や行政の見学の受け入れを行っている。また事故報告をする際も連絡を取り合い、より良いケアに活かせるよう努めている	仙台市の実践者研修や、行政の見学、また、職員手作りの中国語の横断幕で中国からの見学者を受け入れた。事故報告には適切なアドバイスを頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員への周知徹底に努め、身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいる。また外部の研修に参加し知識と意識を高めている。新人教育や掲示板により周知している	身体拘束委員会が主になつての勉強会や、外部研修に参加した内容をフィードバックして職員で共有している。三大ロック(スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック)のうち、特にスピーチロックについて職員間で意識し、身体拘束をしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、職員への周知徹底に努め、職員全員で絶対に虐待をしない取り組みをしている。また外部の研修に参加し知識と意識を高めている。新人教育や掲示板により周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、職員への周知徹底に努めている。また外部の研修に参加し知識と意識を高めている。新人教育や掲示板により周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から、ご本人、家族の不安や思いを聞くようにし、ご本人の生活歴をセンター方式を用いて把握するように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、生活の様子を伝えて、家族の思いを確認するようにしている。また、家族の思いや要望があった時は家族面談簿に記録したり、申し送り等職員間で情報共有に努めている	家族の来訪時に話し合った事を「家族面談簿」に仔細に記録し、入居者の過ごし方などをケアプランに反映し、改善した。事業所の引越の際に、遠方の家族からも申し出があり手伝いをして頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回定期的な面談を行っている。また、必要に応じて個別に面談を行い、不安や思い、提案を聞くようにしている	定期的に意見や提案を聞く機会を設けている。外部研修にも積極的に参加し、職員の意識向上とキャリアアップを図っている。職員の提案でメーカーから講師を招き、パッドの正しい使い方を学びケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行っている。また、毎月自己評価をしてもらい、達成状況によってアドバイスをしたり相談にのっている。年に1回全事業所が集まって事例報告会を開催し会社全体の意欲向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得に向けた勉強会を開催したり、内部研修、外部研修への参加を促し、認知症の理解や介護技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の交換研修や、年に1回老人福祉施設に依頼し介護技術研修を行う等サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を用いてバックグラウンドの把握や、本人が何を望み、何に困っているのかに耳を傾けながら安心した生活を送れるよう信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思っている事や、何に困っているのかを話せるようし、家族が安心してサービスを導入できるようコミュニケーションの時間を多くとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞きながら、相談を行い、必要なサービスなのかを判断しその時に合ったサービスを利用できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を大切にし、1人ひとりのできる事やして頂くようにしている。人生の先輩と尊敬し、生活の場面で長年培った知恵を借りている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生日の際には家族に連絡し参加の声掛けをしている。外出や外食支援も家族からの協力を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方にいらっしゃる家族と手紙のやり取りをしたり、近所にいる友人と一緒に面会に来て下さったりしている	誰もが訪ねて来やすいホームの雰囲気作りをしている。家族の来訪も多く、友人との交流や馴染みの美容院等に出かけている。本人が、これまで支えてきた家族との関係性も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、日々の生活が楽しくなるよう職員が間に入ってコミュニケーションをとっている。一緒に役割に取り組む場面を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5月にお亡くなりになられた家族の家に利用者と一緒に線香をあげに行った。また、秋祭りの参加の声掛けも行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言葉や行動に注目して、何を希望しているかの把握に努めている。また、ケース記録や気づきシートにも記入し職員間での情報共有を行い、実現できるよう努めている	日々のケアの中で把握した事柄を「気づきシート」に記録し、職員間で情報を共有している。新聞が読みにくいという入居者に、ルーペを購入し元のように読める様になった。本人の意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にセンター方式を記入して頂き、これまでの馴染みの生活の情報や、職員とのコミュニケーションの中からも新たな発見があるので、職員間で情報共有していきケアに活かせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の体調や気分に合わせて過ごし方が1人ひとり違う事を理解し、思いを尊重しながらどう過ごしたいか本人と相談するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のユニットカンファレンスや、都度のヒヤリハット、気づきシート等で課題やケアの方向性を話し合い、介護計画を作成している。また毎月ユニットカンファレンスでケアプランのモニタリングを行っている	職員がセンター方式のEシート(24時間アセスメントまとめシート)に記載した内容に管理者の気付きを補足し、また、日々の記録を根拠にしたケアプランを作成している。本人のこだわりの健康法等もプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の生活の様子や言った言葉を記入し、毎月ケース記録をチェックしケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	床屋や個別の買物などの要望が出た時はなるべく早く対応できるよう努めている。また、訪問歯科や訪問マッサージなど身体的な要望にも個別に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の農家から米や野菜を購入し、地産地消をしている。週3回の食材買物や都度の買物にも利用者に同行してもらい、自己選択、自己決定をしてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、家族や本人にかかりつけ医か、往診かを選択してもらっている。往診は月に2回行っており、日々の生活の中で気になった事や異変などを往診記録に記入し指導や助言を頂いてケアに活かしている。往診医の指示で専門医を受診する事にしている	かかりつけ医は全員訪問診療で月2回の往診と、訪問看護が毎週あり、医療機関は24時間対応になっている。個別の受診は、かかりつけ医の指示を受け対応している。訪問歯科は必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の健康チェック時に看護記録を用いて気になった事や特変を伝えたり、都度の状態変化を電話やFAXを用いて相談、報告をして助言や指示を頂いてケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やご家族と連絡を取り、現在の状態や今後の方針について情報交換を行っている。お見舞いにも行かせて頂き、安心して頂けるよう努めている。また退院後も安心して生活が送れるよう医療との連携や環境を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に看取りやインフォームドコンセントについて記入して頂き、本人やご家族の思いを把握している。また、利用者の状態が変化した際にも家族の思いを把握できるよう、看取りやインフォームドコンセントについて記入して頂いている	看取りと重度化に関する指針」「同意書」「看取りについてのインフォームドコンセント」を成文化している。入居時・体調を崩した時・ターミナルに入ってからと、段階ごとに家族と話し合い意思確認をしている。4月から3人の方を看取り、入居者も一緒に静かにお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網の整備や、近隣の方に緊急時の協力依頼をしている。また緊急時の対応やAEDの使用についての勉強会を行い、職員が適切な対応をできるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施し、夜間火災や風水害に対応できるようにし、避難訓練後は利用者も交えて反省会を行い、次回の避難訓練に活かすよう努めている。また近隣の方に緊急時の協力依頼をし、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、夜間想定訓練を毎月行っている。自動通報装置等の点検を定期的に行い、地域の2名の方にも緊急通報が届くシステムが構築されている。秋に消防署指導の避難訓練が予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩として1人ひとりの尊重を大切にすることを努めている。また日々の生活の中で羞恥心について注意し、排泄、入浴時には細心の注意をしている	倫理規定に沿った「プライバシー規定」を職員はよく理解し、一人ひとりの尊厳を尊重したケアを実践している。特に入浴・排泄時には羞恥心に配慮し、スピーチロックにも注意を払い声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、自己選択、自己決定の時間を大切にしている。自己主張のある方ない方がいるので、表情や仕草から把握するように努めている。コミュニケーションの中から希望を言えるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるよう、一人ひとりの思いやペースを大切に、自己選択、自己決定ができるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容をお願いしたり、馴染みの床屋や美容室に行っている。また、朝の更衣の時に今日着る服を一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が得意な方には手伝って頂き、その人ができる事をお願いしている。献立にも季節の旬の物を多く取り入れている。また畑から旬の野菜と一緒に収穫して、一緒に調理して食事に出すという流れができている	食材は地産地消を優先し、週3回入居者と一緒に買い物に行く。皆で育てた自家製の旬の野菜も食卓に上る。行事食や外食、希望が多い刺身は涼くなってからと、それぞれの力を生かした食事会を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとり食べる量が違うので、その人に合った量や食事形態をモニタリングし提供している。チェック表を用いて水分をチェックし1日2000ccを目指して水分の促しをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝前に口腔ケアをしている利用者もいるが拒否があって口腔ケアできない利用者には緑茶ゼリーを提供して、口腔内が少しでも清潔が保持できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつゼロを目指しており、現在おむつ使用している人はいない。トイレでの排泄、適切なパットを使用する為に、尿量を計測したり、チェック表を用いて時間を見たり、その人に合った排泄パターンの把握に努めている	自立に向けた支援をし、両ユニット共おむつをしている方はいない。失禁や失敗の原因を探り、パットの種類と使い方の勉強会をしている。夜間のみ安眠を重視しパットの大きさを変えたり、ポータブルを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使用するという選択は最終手段と言う事を職員は理解しており、10時のカスピ海ヨーグルト、味噌汁にオリーブオイル、ご飯に棒寒天、食物繊維の多い食材を使用したり、10時のラジオ体操で体を動かしたりと自力排便ができるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の時間を尊重している。拒否がある方には時間を取って、タイミングや職員、時間変えてコミュニケーションを図り入浴を促している。入浴しない日はシャワー浴や清拭、足浴を行っている	介護度が高くなった場合を考慮し、いぶきユニットはリフト浴が出来る仕様である。好みの曲を聴きながら、ゆったりと入浴している方もいる。職員と語らうひと時であると共に、さりげなく湿疹の有無等を確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋げられるよう日中の活動、夕方に向けて光や音、声のトーンに注意して職員の動きもうるさくならないよう努めている。日中もソファや居室で休息をとれるよう状態をみながら声掛け、見守りをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	リスク管理一覧表を作成し、毎月見直しをして情報共有をしている。服薬時には職員同士で声に出して読み上げチェックをしている。しっかりと飲み込むまでその場を離れないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年も仙台シルバー創作展に出展した。生け花やホーム周辺の花の水やり等、役割や楽しみごとができるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事の際は家族の協力を得ながら行くようにしている。個別の要望があった際は早急に対応できるよう職員で連携を図っている。また、閑上朝市や創作展、近所の夏祭りなどにも行き楽しみのある生活を送れるよう努めている	日々の散歩や個別の外出や七夕・紅葉狩り等季節毎に出かけている。家族の協力を得ながらの外出もしている。仙台市シルバーセンターの創作展に、今年も入居者の作品を出展し鑑賞してきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際に自分の財布からお金を出して支払えるよう、見守りを行っている。現在金銭管理を自分でできている方は4名おり、定期的にお金を一緒に確認して本人の出納帳に記入するようにし、紛失に注意している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族からプレゼントが届くと、本人が書いたお礼の手紙と写真を送っている。電話をしたいという方には電話を使えるようにしている。携帯電話を持っている方もいて自由にやり取りできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を摘んできたり、購入してきて、一緒に生け花をしユニットが明るくなるように努めている。夕方にかけて、声のトーンや照明の明るさを徐々に落として行き入眠しやすい環境を整えている。また職員の行動にも注意し刺激にならないよう努めている	両ユニットを挟むように広いウッドデッキの中庭があり、自由に行き来が出来る。両ユニットの交流の場になっており、有効に活用されている。天気の良い日には、沢山の洗濯物がなびき生活感がある。居間は華美な飾り付けはされず、落ち着いて寛げる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のベンチが憩いの場となっており、ラジオ体操後のお茶飲み場になっている。また和室のソファではゆっくりテレビを観たり、洗濯物をたたまれたりと思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使っていた馴染みの物を持ってきて頂けるように伝え、自宅と変わらない雰囲気で生活が送れるよう努めている。また、写真や花を飾り、雰囲気が明るくなるように心がけている	本人の生活スタイルに合わせ、畳・フローリング・ベッド・布団は自由である。掃出しの窓は解放感があり、ここから出入りし花に水やりをしている方もいる。個室で過ごす入居者も多く、愛用の椅子は存在感があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉には「使用中」と書いた札を置いており、使用しているのを分かるようにしている。毎月の危険箇所チェック表、日々の生活様子から安全で自立した生活が送れるよう努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300089		
法人名	株式会社 リブレ		
事業所名	グループホーム なつぎ塾	ユニット名	のどか
所在地	〒 宮城県仙台市若林区今泉小在家東97-2		
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念でもある利用者本人を一番大切に考え地域で安心して生き活きと暮らせるように日々支援している。掃除や洗濯、食事作りなどの家事、散歩やドライブ、園芸、畑作業など毎日その人のペースに合わせて取り組んでいる。また、両ユニットの交流としてラジオ体操を一緒にを行いお茶を飲むのが恒例になっている。地域で行われる催し物にも積極的に参加したり交流している。季節ごとに行事の計画を立てドライブや外食をする時は家族参加している。バックグラウンドに沿った趣味支援(習字や生け花、裁縫、カラオケ、卓球など)を行い生き活きと生活している。掲示板を利用した様々な啓発を計っている。オレンジカフェも8月から実施予定。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR長町駅から車で15分ほどの豊かな自然環境に恵まれた事業所は、あすと長町の仮設での生活を経て3月16日に引越し5カ月が経過した。町内会に入会し地域の行事に参加したり、オレンジカフェを企画する等、「なつぎ塾」が短期間のうちに地域の一員になりつつある。3月末には被災以前から交流があった「六郷すずめ踊り」の皆さんが、花のプレゼントを持参して駆け付け歓迎の踊り披露があり、子どもたちと握手をする入居者に笑顔がみられ職員も共に感動を分かち合った。センター方式のシート・家族面談簿等にも仔細な記録と工夫が見られ、ケアプランに活かされている。落ち着いた暮らせるよう寄り添うケアを実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 年 月 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなつぎ塾)「ユニット名 のどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員でBS法にて案を出し理念作りを行っている。理念は常に頭に入れ事業所の理念とユニットの理念をスタッフで共有し行っている。カンファレンスなど理念に沿った対策・方向性を考えている。申し送りでも読み上げ1日の実践につなげている	年度末になつぎ塾理念と各ユニットの理念を、見直した。職員から出された意見を集約して、各ユニットの理念を作成し共有している。地域に馴染みながら四季を感じ、一人ひとりの生き甲斐を大切に生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年を通して地域の方々に行事の参加(敬老会・秋祭りなど)をして頂いている。他の町内会共、交流を図っている	事業所が地域の社会資源でもあり、独居の方への配慮、認知症の理解等、日常の交流に留まらない地域とのつながりを意識している。掲示板の活用やオレンジカフェを企画し、新しい地域との交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部者からの講演会(認知症についてなど)、グループホーム協議会による実践報告会に参加し地域の方々にお伝えしている。毎月なつぎの便りを発行し地域の方々へ配り理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き包括支援センター、地域の方々、ご家族様、入居者様を含めて話し合いをし意見交換を行いより良い事業所の運営に生かしている。地域との方々の情報を元に祭りなど参加を行っている	包括職員(毎回)・本人・家族・区長・民生委員で構成し、年6回開催している。要望から仮設の方々を対象に、認知症サポーター養成講座を開催した。移転後も定期的に開催され、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームとして市町村担当者各位と連絡や報告を行い日頃から協力関係を築けるよう取り組みを行なっている。状況報告・相談を行っている。	仙台市の実践者研修や、行政の見学、また、職員手作りの中国語の横断幕で中国からの見学者を受け入れた。事故報告には適切なアドバイスを頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月の勉強会を開いたり、朝のミーティング時の認知症研修などで常に拘束しないようみなどで意識を共有を図っている。カンファレンス時等日常的に話し合いがされ拘束しないケアを意識している。掲示し、周知している。	身体拘束委員会が主になっての勉強会や、外部研修に参加した内容をフィードバックして職員で共有している。三大ロック(スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック)のうち、特にスピーチロックについて職員間で意識し、身体拘束をしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティング時の認知症研修や月の勉強会を開いたり、外部研修に参加し意識向上に努めている。お互いに声を掛け合い虐待防止に努めている。職員のストレスや無理な介助にならないように協力体制を組んでいる。掲示し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝型のミーティング時の認知症研修や職員会議前の勉強会を通じて理解を深めている。外部研修に参加したり情報を共有している。外部研修後伝達研修を行っている成年後見制度を利用している利用者もあり、成年後見人と情報を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族とはしっかりと話し合い常に状況を説明したり不安や疑問点を尋ね理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し常に意見を出せるよう努めている。運営推進会議など意見交換を行っている。都度家族に電話連絡したり、意見を聞いている。月に1回近況報告を行っている。	家族の来訪時に話し合った事を「家族面談簿」に仔細に記録し、入居者の過ごし方などをケアプランに反映し、改善した。事業所の引越の際に、遠方の家族からも申し出があり手伝いをして頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の面談や職員会議を通じて疑問・提案等話し合い意見要望を聞いている。職員会議やユニットカンファレンスなど意見交換を行い反映させている。気付きシートなど活用し良きホーム作りに努めている。	定期的に意見や提案を聞く機会を設けている。外部研修にも積極的に参加し、職員の意識向上とキャリアアップを図っている。職員の提案でメーカーから講師を招き、パッドの正しい使い方を学びケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を半年に1回行っている。勤務状況の把握・職員一人一人のやりがいや希望を聞き職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、内部研修に参加したりスタッフのレベル向上に力を入れている。職員の力量をしっかり把握し介護技術研修などを受け入れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協議会の研修の参加等、情報交換の場を作り、サービスの質の向上に努めている。実習生・研修生など積極的に受け入れ取り組んでいる(新しい情報を得ると共にホームの向上に努めている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族に話を聞き、生活状況の把握、不安や要望を聞き取りコミュニケーションを積極的に図り本氏の思いを組み取りケアに努めている。信頼関係作りにも励んでいる。センター方式シート等で本人の言葉や思いを具体的に記入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所することについて本人はどのように思っているのか。家族は本人にどのように生活して欲しいか等把握するよう努力している。面会時に要望を聞いたり、電話で確認したりし信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のバックグラウンドや出来ること出来ないことの把握。情報を共有し、どのようなものが良いか提案したり、利用者様、家族に選択して頂き対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望する暮らしを最優先に考え利用者にとっての楽しみを共有できるよう尊厳を大切に安心して生活して頂けるよう努めている。スタッフの分からないこと等積極的に入居者様に尋ねたり共に生活していることをお互いを感じている。対等な立場で人生の先輩としてケアを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や行事に参加して頂き家族との交流が途切れないようにしている。来所されないご家族様にも最低でも1ヶ月に1度は連絡し生活の状況を説明し信頼関係作りにも努めている。電話した時に本人と家族が話せるよう努めている。月に1回お便りをお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1度の行事に家族に参加して頂いたり、いき付けの美容院や訪問マッサージなど利用し関係が途切れないよう努めている。友人の面会、教会にお出掛けされたり月に1回家族と外泊されたり馴染みの関係を続けている。	誰もが訪ねて来やすいホームの雰囲気作りをしている。家族の来訪も多く、友人との交流や馴染みの美容院等に出かけている。本人が、これまで支えてきた家族との関係性も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に楽しく過ごして頂けるような席の配置にしたり孤立しないよう支援している。必要があればスタッフが介入しトラブルを防止良好な関係作りにも努めている。趣味など一緒に楽しく出かけるよう支援している。スタッフ間で情報を共有しうまく生活が送れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係が終わらないよう電話で確認し相談支援に努めている。入所先のお見舞をし、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしたいのかを希望・要望を聞き、本人からの入手が困難な場合ご家族様にお聞きし職員同士で情報共有検討しケアプラン作りに努めている。ケースカンファレンス、ミニカンファ、気付きシート、ケース記録、センター方式シートの作成(ケアプラン更新ごと)	日々のケアの中で把握した事柄を「気づきシート」に記録し、職員間で情報を共有している。新聞が読みにくいという入居者に、ルーペを購入し元のように読める様になった。本人の意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドの把握やセンター方式シートを家族に記入して頂いたり、本人や家族に聞いて付け足したり更新している。入居者の入居前の趣味や好み等をその都度、本人・家族に聞いている。生活環境も入居前の暮らしに近づけるよう取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者がおり、現状把握に努めている。カンファレンス等でスタッフ全員と共有している。ケース記録や日誌での把握・申し送りでの確認を常に行っている。ヒヤリハットの記入や気付きシートを活用して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員が話し合い、現状に即したケアプラン作りに努めている。ミニカンファ・月1回のカンファレンスで職員間で情報の共有を行っている。身体的に問題のある方には主治医や家族を踏まえて話し合いをし介護計画作りを行っている	職員がセンター方式のEシート(24時間アセスメントまとめシート)に記載した内容に管理者の気付きを補足し、また、日々の記録を根拠にしたケアプランを作成している。本人のこだわりの健康法等もプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録、チェック表を使用し個別の記録を細かく残している。気付きシートやヒヤリハット、ミニカンファなど記入したり、個別記録に実践・結果を記入し、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々気付いたことは気付きシートに記入したり情報を伝え、スタッフ皆で共有しケアにいかせている。訪問マッサージや訪問理容、往診・訪問看護など柔軟に対応している。(状態によって主治医、看護職員、家族に報告している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康維持の為に散歩や行事に、買い物に行かれたり、ドライブを楽しんでいる。美容院や花屋に買い物に行ったり畑に収穫したり楽しめる支援を行っている。町内会に入り回覧板を回したり地域と協働し暮らせるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施し夜間に状態変化があった時は連絡できる体制が整っている。日中も連絡できる体制になっている。個別に診療が必要な場合は必ず家族に了解を得ている。状態によって訪問歯科も利用している	かかりつけ医は全員訪問診療で月2回の往診と、訪問看護が毎週あり、医療機関は24時間対応になっている。個別の受診は、かかりつけ医の指示を受け対応している。訪問歯科は必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護で必ず変化があれば報告し緊急性がある場合は看護師と連絡する体制は整っている。(FAXや電話報告など状態に応じて行っている)情報連絡表を必ず渡し気になる点など話し、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や医師との相談を密に行い本人にとって適切な入退院が出来るよう努めている。こまめに面会を行って情報収集し、カンファレンスを行い早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・職員間(チーム)・医療とで話し合いを行いインフォームドコンセントの説明を行っている入居者様の状態にあった時期に医者、看護師、家族、本人スタッフとの話し合い情報の共有や今後についての再確認をしている。	看取りと重度化に関する指針」「同意書」「看取りについてのインフォームドコンセント」を成文化している。入居時・体調を崩した時・ターミナルに入ってからと、段階ごとに家族と話し合い意思確認をしている。4月から3人の方を看取り、入居者も一緒に静かにお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置研修を受けたり、勉強会に参加し実践力を身に付けている。消防署の救命救急の講習会に参加している。実践できるかは不安感がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	月に1度の避難訓練(夜間想定)や風水も含めて行い反省会など開き情報を共有している。運営推進会議などを通じて地域の方々にも情報の共有と協力をお願いしている。	マニュアルを作成し、夜間想定訓練を毎月行っている。自動通報装置等の点検を定期的に行い、地域の2名の方にも緊急通報が届くシステムが構築されている。秋に消防署指導の避難訓練が予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人尊厳を大切にケアに努めている。また、羞恥心に配慮したトイレなどの声掛けを行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けケアしている。対等な立場で人生の先輩として敬意の気持ちを持って接している。プライバシー規定がある。	倫理規定に沿った「プライバシー規定」を職員はよく理解し、一人ひとりの尊厳を尊重したケアを実践している。特に入浴・排泄時には羞恥心に配慮し、スピーチロックにも注意を払い声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動からも希望や願いを汲み取れるよう努力している。自己決定できるよう声かけの内容を一人ひとりに沿った方法で行い本人本位のケアに努めている。バックグラウンドを把握し自己決定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握してその日をどのように過ごしたいのかお聞きしその時の気持ちを尊重しスタッフ主体ではなく、利用者一人ひとり希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性はお化粧をしたり美容院に行ったり、髪の毛をピンで毎朝止めたりしている。男性は髭剃りや訪問理容で整髪している。洋服も好みの物を一緒に買いに行き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいもの季節の食材をレシピに取り入れ栄養バランスに考慮しながら作成している。苦手なメニューがあれば他の食材を出したり臨機応変に行っている。食事作りや後片付けなど自宅でして頂いた事をやっています	食材は地産地消を優先し、週3回入居者と一緒に買い物に行く。皆で育てた自家製の旬の野菜も食卓に上る。行事食や外食、希望が多い刺身は涼くなってからと、それぞれの力を生かした食事会を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、個々にチェック表に記入し食事量や栄養バランスを考え水分も確保している。一人一人の状態や力をみながら摂取しやすいように調理して提供したり声掛けして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝前に声掛けをおこなったり本人の力に応じ義歯の洗浄など介助したり声掛けや見守りで対応している。舌のブラッシングも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の力や排泄パターンを把握することで排泄の失敗やおむつ使用を減らしている。状態によってはその都度カンファレンスを行い自立に向けた支援を第1に考えた支援をしている。チェック表を使い排泄パターンの把握をしている。	自立に向けた支援をし、両ユニット共おむつをしている方はいない。失禁や失敗の原因を探り、パッドの種類と使い方の勉強会をしている。夜間のみ安眠を重視しパッドの大きさを変えたり、ポータブルを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やさつま芋、ごぼう等お通じに良い食物を使用したり、味噌汁にオリーブオイルを入れたり、冷たい水分を多めに摂取したりカスピカヨーグルトの提供。ラジオ体操、オリジナルの軽体操、散歩等を行っている。腹部マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴して頂くように支援している。また、好きな音楽を聴くことで楽しく入浴して頂いたり、状態によりシャワー浴や足浴からの入浴への促しなども行っている。	介護度が高くなった場合を考慮し、いぶきユニットはリフト浴が出来る仕様である。好みの曲を聴きながら、ゆったりと入浴している方もいる。職員と語らうひと時であると共に、さりげなく湿疹の有無等を確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡出来るよう日中の活動量を増やしたり、日々の状態に合わせて昼寝をして頂いたり、自宅にいたように21時までテレビを見てその後、休まれる利用者や寝付けない方にはお話を傾聴したり暖かい飲み物をお出しし安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ボックスやリスク管理ファイルに一人一人の薬の処方箋を入れ皆で目を通して。お薬手帳に薬の効用の書いてあるシールを職員が順番に貼ることで(薬の種類の確認など)症状の変化の確認に努めている。薬の種類によってグレープフルーツ禁止など把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは常にバックグラウンドを把握しある利用者は、趣味で生け花や習字、裁縫、動物との触れ合い、音楽鑑賞、図書館の利用、畑の収穫などその人にあった支援に努めている。ドライブや散歩等気分転換の支援を行っている。外食支援なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに参加されたり、家族と行事の参加で紅葉ドライブや七夕見学などしたり、買い物に出掛けたり対応している。毎週、利用者によって家族と教会に出掛けたり、毎月外泊される利用者もいる。	日々の散歩や個別の外出や七夕・紅葉狩り等季節毎に出かけている。家族の協力を得ながらの外出もしている。仙台市シルバーセンターの創作展に、今年も入居者の作品を出展し鑑賞してきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方は買い物の時に自分で支払っている。立替にて本人の希望に応じていつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際には対応している。家族様から電話があった時は入居者が話できるように支援している。年賀状等直筆で書いている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には金魚の水槽を置いたり、えさやり等利用者が行っている。花瓶等に季節の花を生けたりテーブルに飾ったり出来るだけご自宅の家庭環境に近づけている。中庭や畑にも季節の花や野菜を植えたりして定期的に一緒に収穫している。居室の温度チェックをしたり自分で光の調整出来ない方にはカーテンの調節したりして	両ユニットを挟むように広いウッドデッキの中庭があり、自由に行き来が出来る。両ユニットの交流の場になっており、有効に活用されている。天気の良い日には、沢山の洗濯物がなびき生活感がある。居間は華美な飾り付けはされず、落ち着いた寛げる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の席の配置にしたり、自分で居室に行くつろいでいる。畳のスペースやテレビのある和室のソファーにてもゆっくりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅にあった馴染みのものをホームに持ってきたりして、在宅にいたような雰囲気作りを行っている。お花など飾り居室の雰囲気を明るくしている	本人の生活スタイルに合わせ、畳・フローリング・ベッド・布団は自由である。掃出しの窓は解放感があり、ここから出入りし花に水やりをしている方もいる。個室で過ごす入居者も多く、愛用の椅子は存在感があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは出来るだけ本人がやり、出来ないことは職員と一緒にやっている。安全に気をつけて自立した生活が送れるよう工夫している。毎月危険箇所チェックを通し安全の確認を行っている。生活しやすいように扉や物に札を付けたり理解しやすいように工夫している		